

新建こども研究会

子どもの居る心地よさ ～これまでの活動から～

ここ10数年程、子ども関連の活動を実施。

田舎におけるごく普通の生活の営みを堪能。これで広がりた。

- (1) 中山間の古民家における「居る心地よさ」を堪能
- (2) 何気ない土着の想いをもって他地域と交流

これまでの実践を楽しい物語としてまとめ、いざないます(借越ながら)。

資料; 北陸こども、こども地方本委、子どもを者、子どもと居す所属; 新建富山支部、北陸こども環境研究会、NPO知隣の結い

30min ppt;18枚

2024年10月6日 富裡豊



■1.2 子ども対象の団体

スキップ

▲子どもの位置づけ

- ・子どもの定義;18歳未満、18歳以上は成人
- ・子ども生育期区分;乳幼児、未就学童、学童、中高生、

▲子どもに関する研究や実践の団体

学術系;**こども環境学会**2004、子ども教育支援建築会議2013

子ども学会2003、保育学会1948、他、北陸こども

教育系は略

医療系;精神乳幼児学会、小児科学会

実践系;**冒険あそび場**(全国に有、初は世田谷1979)、IPA日本1979、

放課後倶楽部(全国に有)、各地域の街づくりと一体、他

コミュニティ;**イヌラ村**(富山1983)、**ゲラ村**(八ヶ岳2012)、**むぎのこ**(札幌1983)、**竹**

地域系;児童館、児童クラブ、子ども会、各種スポーツクラブ

教育系福祉系;こども園(幼保)、小学校、中学校

企業系;子ども向け活動;例、小松製作所;こどもの勉強から遊びまで

市民系;北陸こども(元市民系)、**イヌラ村こども遊ばせ隊**、かたり場、他

■■ プロフィール

略歴;教育職ほぼ一筋、一時農業系コンサルに。富山→都立→富山在住
若者期都会;「狭く深く」で頑張る、**学術系**
中年期田舎;Uターンで「浅く広く」を楽しむ、**行動系、新建**
シルバ期田舎;地域にて「地域活動」を楽しむ、**市民系**

専門;地震工学、後に 建築・街、教育、感性、市民、若者・子ども
最近;**災害・社会、街・社会づくり、市民感性、思考・活動、子ども環境**

建築;建築の面白さを年を取ってから知る

その時、**建築に元気なし、を突感**(元気者も多だが、何時までも若さを
いるんなあたり前がすごいことと若者らしく感じたものです)

根子;後ろから追いかけるがごとの**遅まき視点**

田舎ののんびりムード→「浅く広く」

スマートな論理もいいが**身近な論理、背景の論理**が気になる

◆お面白いことまでおられる皆さんへ;**面白いこと好きのシルバが参考。**
よろしくお願ひいたします。

■■1. はじめに 1.1 子ども問題概要

本活動の立つ位置を概観、子どもの健全育成をめざし
子ども問題;子どもを取り巻く環境の歪、子ども生育への影響
貧困、教育格差、体験格差、片親、差別(外国人系含)、
虐待・無視、不登校、ひきこもり、犯罪、他

人間環境;

・家庭、地域、・生活、教育、・社会

根源;差別・格差の環境下では歪な発達 → 社会問題

対応;

・関係性構築;学ぶ場、遊び場、遊びコミュニティ、地域支援、
家庭支援、居場所づくり、子ども食堂

重点;子ども成長期に健全な営み・蓄積→**遊びが基本**

→触れ合い、コミュニケーション、学び、健康、育み、他

ここでの活動;遊び支援や居場所づくり、地域充実化を念頭

実際は、**心地よさを満喫、これを積み重ね**、次を創る

■1.3 これまでの活動

スキップ

研究会活動;新建研究集會、子ども輪を中心に報告

第28回;2012,子どもの生活環境における教育と建築

第29回;2014,子どもの環境づくりにおける諸問題

第30回;2016,子ども環境の健全化に向けての議論

第31回;2018,子どもの環境認識と夢の育み、より良い環境づくりへ

第32回;2020-2021;パス 第33回;2024.;掲載

教育活動として

1999,2000 親のための造形教室(通年)、**家庭での親子造形遊び**

1999,2000 チッコサマスクール;段ボールの家1999、各種素材で夢ある家2000

2005,2013 高校生のための造形教室(a通年、b夏休み)

街づくりや拠点の活動としてもいい

2010~ 北陸街道清川宿街並保全会にて各種イベント、親子で遊び

2012~ おおかみこどもの**花の家**にて各種イベント、親子で

他団体と共同も;2010~ 「北陸こども」として活動

2010~ 富山**イヌラ村**子ども遊ばせ隊と共同(を応援)

2012~ こども環境学会**地方本委員会**として活動(合同セサ等、正式は2015~

■1.4 考えと行動が沸き上がる

(スキップ)

▲物の見方と考え方;「遅まき」と「田舎」のだいご味。(背景を楽しむ)

→**生活営み(小さな世界)の延長(積み上げ)が街・社会**、を突感

小さな物語から大きな物語をby岩見

先人のマフオード、岩見、黒崎、各氏の偉業を最近知る

→延長には

市民主体で、土着からの展開(ご近所地域の日常営み感覚)、

大きな世界にむけた組織論理をも作りあげをめざし

同様意見アレキサンダあり。彼は専門家主導、市民主体でなし

→基本;社会の健全化。これは市民生活の営みの充実から

市民社会の成熟を **市民版リアルートの醸成**

▲遅まきの強み;先人の声も種々音耳に入らず、**勝手構想可能**

・何かいうと、すぐに誰かが既に言った・やってた、と

→そんなことより実践あつての先人理論

・最初から流れるような展開でなく、いろいろたつてみて、

知らないうちに、それらが関連しあつてきた、が自然だ

■1.5 こども環境への関心

- ▲なぜ関心か
 - ・先人考; 世の中を変えるのは次世代「子ども」が担う→育成要
社会づくりは街から、親子や市民の社会参加により
 - ・私考; 子どもといれば生活も子どもと共に楽しむのが自然
(先人考は遅まきでもよく聞く)
→ **小さな物語を子ども視点にてまず設定、を再認識**
- ▲問題根源; 子ども問題は大人問題そのもの; 家庭、園、学校、地域、他
改善; 追い立てられる社会風潮を正し、人間復権として
自然体行動を、親子間、街中、地域中、機能集団中
- ▲遂行; 自然体で楽しむ、理屈はあとから
 - a. 問題対処の一環 ; 改善を目指し理屈を貫いて
 - b. 自然体で行動を楽しむ; 目的もかなり限定

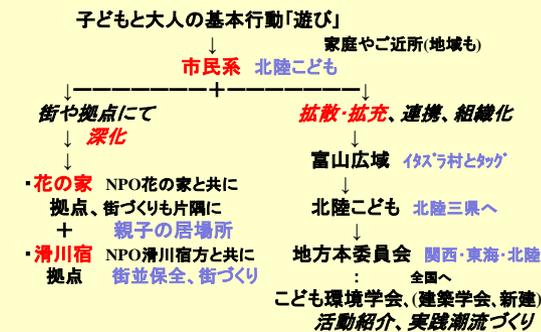
■1.6 勢いは心情から

- 心情
 - 居する心地よさ; 心が地のように安定した状態か
→ **住まうて心地もよきかな**
地は風土であり、空間であり、住まいや街であろうか
- 根幹
 - 生活営みの根幹; 自然考と行・自然感性にあり心情の醸成
場と人の世界; 一体的であり相互に作用しあう
そんな環境において、子どもと大人の織り成す協奏成立
初から遊び場・居場所の設定でなく**どこでもが遊び場・居場所**
- 発展系として
 - 感受性・感性・好奇心、倫理・哲学(考える事)→人間性
理性的な体系、創造 →科学技術、他
- 研究; 子ども問題や実践としての遊び問題の研究も要

■2 活動考 ■2.1 楽しむ、その背後も

- ▲活動目的
 - ・崇高な目的の一時棚上(街づくり環、市民社会熟成目指等)
 - ・人間自然行動を自由奔放に楽しむこと。
→ **小さな世界の充実を書籍**
- ▲市民主導、市民主体 (実践先行の取り組みとして)
専門家主導や理屈先行も多いのはちよつと
市民主導では主導と利用を区分せず、自由関連に枠越えて
そこには;**情熱と感性、だから実践先行**
理論は直必要あらず、エッセンス志向不要
あるのは;**楽しさ、人間のおもしろさ、居する心地よさ**
継続; 確かな想いの積み重ね、
情熱や感性の磨き(素養磨き、健全化)→市民の源力
- ▲理論と実践 実践ではまずは実践先行、理論家は後に。
諸問題を実践・理論で対応していきたいもの

■2.2 活動の系統、(振り返れば)



■2.3 広範囲・組織化へ(非教育系の場合) スキップ

- ▲子どもの位置づけ(18歳未満)、多くは未就学児を対象
- ▲広範囲・多数を対象とした活動、(学校教育系等割愛)
→組織行動; 行政系(福祉系)、学術系、遊び実践系(民間)、
市民系(地域、ボランティア)
- ▲学術と市民の系
 - ・学術系では子ども問題は大人問題、多分野連携要
→建築を主とした建築系活動→「こども環境学会」誕生2004
 - ・市民レベルで地域での営み
→街づくり、建造物保全、
→子ども中心に親も地域人もあそぶ
 - ・市民レベルで**日常生活の営み**(社会健全化は子どもの活性から)
→地域レベル活動の各地への飛び火、各地の物との協奏
→市民系の立ち上げ(北陸こども)→後に学会系に鞍替え
→**実践の道を拡大**、(理論中ぎみの学会とは別に)
地域にて市民との交流が主

■3. 富山での活動応援

イタスラ村の活動

子どもと一緒にただただ遊ぶ
親子お遊び、遊び力の育成(人間性)
遊びのメニュー
皿回し、けん玉、コマ、
鬼おごっこ、花いちもんめ、ふれあい
山菜、ハイキング、ものづくり、工芸、他

場所:
イタスラ村本拠の家(田舎家)
早川家(市内) 周りは早川ファン
が居住

ものづくり



親子遊び、田舎家



富山での活動

富山で、イヌラ村の活動応援
ただただ遊ぶ。

ダンゴ虫探し
皿回し
触れ合い遊び



■ ■ 4. 北陸こどもの活動2011～

目的; 子ども育成を地域の生活の営み力でもって
理論よりも実践ありき。

学術講演会開催よりも**実践家の支援を**
(市民や子供と直に向き合う実践に価値を置く)

歩み; 2010北陸こどもの設立(北陸三県の方々が富山に集結)
市民団体として発足、2011にはこども環境学会傘下に入
当初は講演会や**全員ゼミ**を主に開催
そのうち、**イヌラ村とタイアップ**。学会側からの支援を代行とす
かつて、理論系からは「**エビデ無し、理論構成無しとの難癖**」に反撃した。

基本理念; **遊びが子(親子)を育てる。・大人と共に遊ぶ**
内容; けん玉、皿回し、ふれあい遊び、工作、他(食も、駄菓子屋、ミオヤウ)

▲他地域の研究会
こども環境研究会関西、東海こども環境研究会、北陸こども、
関東こども環境研究会、北海道こども環境研究会、
北陸こども以外の会は研究と実践を平衡実施。

北陸こども、富山の 街や拠点にて

ただただ楽しむ

雪鴨神社の子ども獅子舞
滑川宿にて駄菓子屋と皿回し



■ ■ 5. 地方本委の活動2015～(こども環境学会)

▲活動; 関西・北陸・東海の三地域合同セミ2012～

各地地方活動の集積、地方委登壇は2015より

- ・目的; 地域間交流、時には全国との交流、発表の場の提供
- ・実施; 年一回開催、9月開催2日間、関西・北陸・東海の順
対象; 子ども問題に関心の三地域各位、市民、学生、子ども
参加自由、有料、開催地の一般県民・学生・子どもは無料
参加者; 40～60人
- ・内容; 研究論文発表、活動報告、
基調講演、シンポ、見学会、各種WS、懇親会

▲特徴

- ・**子ども育成の実践、街づくりの一環での子どもの様相、**
- ・**遊びの実践、子ども園での子どもの営み様相、社会的論究少**
- ・**実践活動報告の場を設ける→今後より投稿可となる方策考**
- ・**市民との交流がいつも賑やか。繋がりが三地域にわたる。**

合同セミ、金沢にて



各種企画
懇親会
WS受付
苔玉WS
お魚WS



■ ■ 6. おわりに、今後に向けて

ここでは、子ども問題を俯瞰と深掘り対応。今の思いを列挙。

- ▲問題の設定; **子ども問題は大人の問題、(社会問題そのもの)**
- ▲解決に向けての一方法;
小さな世界の人間環境の健全化を進めることから始まる
・活動範囲の拡散・拡充の積み重ねにより、大きな世界へ
・子どもから初めて大人へ、そこからまたフィードバックで
- ▲こども活動、実践家の視点で(社会問題扱わなかったが)
・自然体で、**子どもと大人の触れ合い**からの人間性醸成
・**情熱と感性の健全育成**が積み重ねの原動力
・諸活動で楽しむこと。極論すると人間性の原点育成。
・**「居る心地よさ」**が人と環境を醸成させることに期待
遊び場や居場所の事前提供とは違った環境が功を奏す
- △さらにまとめ **専門家も市民子どもの垣根を越えてまじり行動が要**
その蓄積が次を創る。積み上げは理論家も交じえ。
一言: **社会問題を全面に置くが、地道な活動が積み上っていくことを実感**